

令和2年度遺伝子組換え作物栽培計画書
別添図表

令和2年度隔離ほ場栽培従事者一覧

業務管理責任者

金山 喜則 東北大学遺伝子組換え実験安全専門委員

業務管理主任者

牧野 周 東北大学大学院農学研究科 教授

隔離ほ場管理者

梅津 知之 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター 技術職員

業務従事者

前 忠彦 東北大学 名誉教授

業務従事者

石田 宏幸 東北大学大学院農学研究科 准教授

業務従事者

鈴木 雄二 岩手大学農学部 准教授

業務従事者, 種子管理及び記録責任者,

隔離ほ場維持管理及び入退記録責任者

石山 敬貴 東北大学大学院農学研究科 助教

業務従事者

菅波 真央 学術振興会特別研究員

業務従事者

尹 棟敬 東北大学大学院農学研究科 博士課程後期3年

川渡フィールドセンター隔離ほ場位置と施設図面

東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター隔離ほ場(通称, 隔離ほ場)および隔離ほ場内施設
(北緯38°44', 東経140°45', 標高140 m)



図1, 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター施設所在地 (左、縮小; 右、拡大)



図2, 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター周辺隔離ほ場試験区より、最も近い一般農家の水田までの距離は約400 m、また、センター内の最も近い研究用水田までの距離は200 mである。

川渡フィールドセンター隔離ほ場位置と施設図面



図3, 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター・隔離ほ場見取り図

別添図表2-2

令和元年度住民説明会案内書

令和2年2月17日

令和1年度 Rubisco 過剰生産及び生産抑制遺伝子組換えイネを用いた隔離ほ場での生育及び収量評価試験実績報告、及び令和2年度同試験計画に関する 公開説明会

東北大学 環境・安全委員会遺伝子組換え実験安全専門委員会
同大学院農学研究科

日時： 令和2年3月29日(日) 13:30～17:00

場所： 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター・新研究棟

議事予定

1. 開会
2. 令和1年度 Rubisco 過剰生産及び生産抑制遺伝子組換えイネを用いた隔離ほ場での生育及び収量評価試験実績、及び、令和2年度同試験計画について
牧野 周 (大学院農学研究科)
3. 質疑応答
4. 閉会
5. 隔離ほ場(現場)の見学 *希望者



会場までのアクセス

【公共交通機関】

- ① 仙台駅 → (東北新幹線) → 古川駅 → (陸羽東線) → 川渡温泉駅 → (徒歩約45分・タクシー約5分) → セミナーセンター
- ② 仙台駅 → (東北本線) → 小牛田駅 → (陸羽東線) → 川渡温泉駅 → (徒歩約45分・タクシー約5分) → セミナーセンター
- ③ 仙台駅 → (高速バス) → 古川駅 → (陸羽東線) → 川渡温泉駅 → (徒歩約45分・タクシー約5分) → セミナーセンター

【自家用車】

- ① 仙台 → 東北自動車道 → 古川インター → (R47 鳴子・新庄方面約40分) → セミナーセンター

*以下、HPをご参照ください。

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kawatabi/access.html>

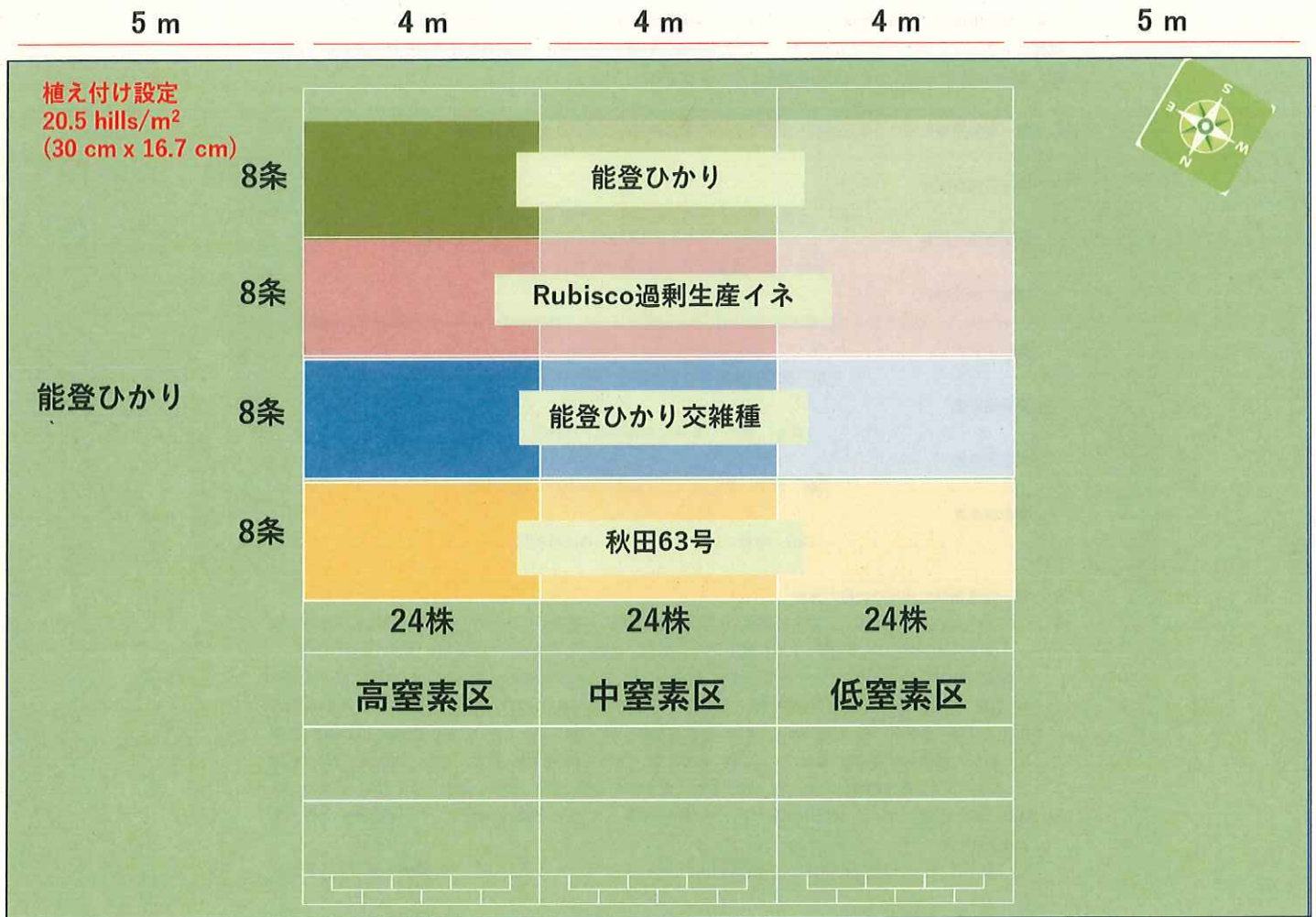
地図は別添付

アクセスに関しては、FBのURLを参照
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kawatabi/access.html>

令和2年度隔離ほ場作業工程表

日付		作付け関連	研究関連	査察
3月	29日	住民説明会		
4月	中旬	播種・耕起		
	下旬	除草		第一回査察
5月	上旬	施肥・代掻き		
	中旬	定植・除草		
	下旬	残苗処理		
6月	上旬	追肥	生育調査・サンプリング	第二回査察
	中旬	除草		
	下旬			
7月	上旬	追肥	生育調査・サンプリング	
	中旬	追肥・除草		
	下旬	防雀網・風速計・花粉トラップ設置	生育調査・サンプリング	
8月	上旬	除草	生育調査・サンプリング	第三回査察
	中旬	風速計・花粉トラップ撤去		
	下旬			
9月	上旬	除草		
	中旬	収穫・落穂拾い	サンプリング	
	下旬	鋤込み・防雀網撤去		
10月	上旬			第四回査察
	中旬	鋤込み	サンプル解析	
	下旬			
11月	上旬			

令和2年度隔離ほ場砂質水田作付け予定図



隔離ほ場砂質水田を三分割し、畝幅・株間(30.0 × 16.7 cm)に、一株3-4本(20株/m²)植えて、野生型イネおよびRubisco過剰生産イネを、それぞれ約2000本、植え付ける。尚、播種及び定植は、手作業または機械(田植機;クボタ歩行型sp-2)で行う。試験区の周辺部は、能登ひかりを植え付ける。

文部科学及び環境省に提出の緊急計画書

緊急措置計画書

平成30年11月12日

氏名 国立大学法人 東北大学

総長 大野 英男

住所 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号

第一種使用規程の承認を申請している Rubisco 過剰生産イネ(*RBCS2*sense, *Oryza sativa* L.) (Sr26-8) (以下、組換えイネという)の第一種使用等において、生物多様性影響が生ずるおそれがあると認められた場合に当該影響を効果的に防止するため、以下の措置をとることとする。

1 第一種使用等における緊急措置を講ずるための実施体制及び責任者個人名・所属

業務管理責任者

金山 喜則 東北大学遺伝子組換え実験安全専門委員

業務管理主任者

牧野 周 東北大学大学院農学研究科 教授

隔離ほ場管理者

梅津知之 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター環境農林科技術職員

業務従事者

石田 宏幸 東北大学大学院農学研究科 准教授

業務従事者

鈴木 雄二 岩手大学農学部 准教授

業務従事者

田副 雄士 東北大学大学院農学研究科 特任助教

業務従事者

石山 敬貴 岩手大学農学部 特任研究員

2 第一種使用等の状況の把握の方法

(1) 第一種使用等の状況は、業務従事者から得られた情報より把握するとともに、東北大学遺伝子組換え実験安全専門委員会の委員による視察を行う。なお、本委員会を構成する委員は、以下の通りである。

経済学研究科 教授 川名 洋、理学研究科 教授 上田 実、医学系研究科 教授 片桐 秀樹、医学系研究科 教授 大和田 祐二、歯学研究科 教授 齋藤 正寛、薬学研究科 准教授 平塚 真弘、工学研究科 教授 魚住 信之、農学研究科 教授 金山 喜則、情報科学研究科 教授 井樋 慶一、生命科学研究科 准教授 小川 智久、環境科学研究科 准教授 上高原 理暢、医工学研究科 准教授 村山 和隆、加齢医学研究所 教授 小椋 利彦、多元物質科学研究所 教授 永次 史、病院 教授 青木 洋子、東北メディカル・メガバンク機構 講師 齋藤 さかえ、遺伝子実験センター 教授 本橋 ほづみ、遺伝子実験センター 准教授 小林 孝安以上18人。

(2) 種子については管理を徹底し、部外者が入手できないようにするとともに、その情報を整理して記録する。

(3) さらに、生物多様性影響が生ずるおそれがあると認められた場合には、得られた情報を整理し、記録する。

3 第一種使用等をしている者に緊急措置を講ずる必要があること及び緊急措置の内容を周知するための方法

直ちに隔離ほ場で試験に従事している者および隔離ほ場のある自治体に連絡、周知徹底する。また、広く周知するため、ホームページ等でお知らせを掲載する。

4 遺伝子組換え生物等を不活化又は拡散防止措置を執ってその使用等を継続するための具体的な措置の内容

(1) 本組換えイネの栽培種子はオートクレーブにより不活化する。

(2) 隔離ほ場で栽培されている本組換えイネは隔離ほ場への働き込み、もしくは焼却処理によって確実に不活化する。

(3) 栽培種子を保存する必要があるときには密閉容器に入れ、当該容器の見やすい箇所に遺伝子組換えイネであることを表示の上、遺伝子組換え生物以外の生物等と明確に区別して保管し、保管場所の見やすい箇所に遺伝子組換えイネを保管している旨の表示を行う。

5 文部科学大臣及び環境大臣への連絡体制

生物多様性影響が生ずるおそれがあると認められた場合は、速やかに、文部科学省ライフサイエンス課及び環境省野生生物課に連絡するとともに、緊急措置対応のための施設内・研究科内における組織体制および連絡窓口を報告する。